

ありとこおろぎ

ある日のこと、ありとこおろぎが、つれだって道を歩いていました。小川まで来ると、こおろぎがいました。

「おれはこの川、とびこえられるよ。ありくん、できるかい」

ありは、

「ぼくだってできるさ」と答えました。

こおろぎはすぐにびよんととびました。うまくいきました。ありもびよんととびました。ありは、足をすべらせて水の中に落っこちてしまいました。

「助けてくれ、こおろぎくん。綱を投つなげておくれ」と、ありはさげびました。こおろぎは走って行って綱をさがしました。すると、むこうから、ぶたがやって来ました。こおろぎは、

「ぶたくん、たのむ、助けてくれ。あんたのかたい毛を二本くれないか。それを綱にして、川に落っこちたありを助けるんだ」といいました。ぶたは、

「じゃあ、ココヤシの実をひとつおくれよ。そしたらあんたに毛をやるよ」といいました。

こおろぎはいそいで走って行って、ココヤシの木を見つけました。

「ココヤシさん、たのむ、助けてくれ。あんたの実をひとつくれないか。そしたら、その実をぶたにやれるし、ぶたはかたい毛をくれる。その毛をおれは綱にして、川に落っこちたありを助けるんだ」

ココヤシの木はいいました。

「じゃあ、わしの葉っぱにとまっているからすを追いはらっておくれ。重くてしかたがない。そしたらあんたに実をやるよ」

こおろぎは大きな声でいいました。

「おうい、からすやあい。たのむから、木からどいてくれないか。そしたらココヤシはおれに実をくれて、おれはその実をぶたにやって、ぶたはかたい毛をくれる。その毛をおれは綱にして、川に落っこちたありを助けるんだ」

からすはなんていったと思いますか。こういったんですよ。

「ああ、どいてやるよ。ただし、たまごをひとつくれたらね」

こおろぎは走って行ってめんどりを見つけてました。

「めんどりさん、たのむ、助けてくれ。あんたのたまごをひとつくれないか。そしたらそれをからすにやって、からすは木からどいてくれて、ココヤシはおれに実をくれて、おれはその実をぶたにやって、ぶたはかたい毛をくれる。その毛をおれは綱にして、川に落っこちたありを助けるんだ」

めんどりはいました。

「じゃあ、わたしに、お米とどうもろこしを持ってきてちょうだい。そしたらあんたにたまごをあげるわ」

こおろぎはいそいで食べ物蔵ぐらに走っていきました。

「蔵くらさん、たのむ、助けてくれ。お米とどうもろこしを少しくれないか。そしたらそれをめんどりにやって、めんどりはおれにたまごをくれて、おれはたまごをからすにやって、からすは木からどいてくれて、ココヤシはおれに実をくれて、おれはその実をぶたにやって、ぶたはかたい毛をくれる。その毛をおれは綱にして、川に落っこちたありを助けるんだ」

食べ物蔵はいました。

「じゃあ、わしの中に巣すを作ってるねずみを追っばらっておくれよ。そしたら、お米とどうもろこしをやるよ」

こおろぎは食べ物蔵に入っっていいました。

「ねずみさん、たのむ、ここから出ていってくれないか。そしたら、蔵はおれにお米とどうもろこしをくれて、おれはそれをめんどりにやって、めんどりはおれにたまごをくれて、おれはたまごをからすにやって、からすは木からどいてくれて、ココヤシはおれに実をくれて、おれはその実をぶたにやって、ぶたはかたい毛をくれる。その毛をおれは綱にして、川に落っこちたありを助けるんだ」

ねずみはいました。

「じゃあ、ミルクを持ってきてよ。そしたらここから出ていってやるよ」

こおろぎは、牝牛めうしのところへ走っていきました。

「牝牛さん、たのむ、助けてくれ。あんたのミルクを少しくれないか。そしたらそれをねずみにやって、ねずみは食べ物蔵から出ていって、食べ物蔵はおれにお米とどうもろ

こしをくれて、おれはそれをめんどりにやって、めんどりはおれにたまごをくれて、おれはたまごをからすにやって、からすは木からどいてくれて、コヤシはおれに実をくれて、おれはその実をぶたにやって、ぶたはかたい毛をくれる。その毛をおれは綱にして、川に落っこちたありを助けるんだ」

牝牛はいいました。

「じゃあ、わたしに、アランアラン草をひとたば持ってきてちょうだい。そしたら、しぼりたてのミルクをあげるわ」

こおろぎは牧場へ走って行って、アランアラン草をかりました。そしてそれをたばにして、牝牛のところへ持っていきました。すると、牝牛はしぼりたてのミルクをくれました。

こおろぎは、ミルクをねずみにやりました。

ねずみは、食べ物蔵から出ていきました。

食べ物蔵がお米ととうもろこしをくれたので、それをめんどりにやりました。

すると、めんどりがたまごをくれたので、それをからすにやりました。

からすはたまごを受けとると、木からとびたちました。

すると、コヤシの木が実をくれたので、それをぶたにやりました。

ぶたは、かたい毛を二本、こおろぎにくれました。

こおろぎはいそいでそれをより合わせて綱にし、かたほうのはしをしっかりにぎって、もうかたほうのはしを川の中のありに向かって投げました。ありは、綱につかまって岸にたどり着きました。

「ありがとう、こおろぎくん」と、ありはいいました。こおろぎは、わらって、

「どういたしまして。友だちは、おたがいに助けあわなくちゃね」といいましたとき。

おしまい

* アランアラン草 イネ科の草。

出典 『語りの森昔話集1おんちよろちよろ』村上郁再話

原話 『世界の民話22』小澤俊夫訳／ぎょうせい